



2019年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年2月1日

上場会社名 シミックホールディングス株式会社
 コード番号 2309 URL <http://www.cmicgroup.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 中村 和男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員CFO (氏名) 望月 渉

TEL 03-6779-8000

四半期報告書提出予定日 2019年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第1四半期の連結業績(2018年10月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第1四半期	17,399	4.6	965	4.8	861	16.8	536	1.4
2018年9月期第1四半期	16,637	8.1	1,013	102.0	1,035	67.1	544	170.9

(注) 包括利益 2019年9月期第1四半期 434百万円 (%) 2018年9月期第1四半期 660百万円 (29.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第1四半期	28.89	
2018年9月期第1四半期	29.09	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年9月期第1四半期	77,954	32,673	28.2	1,184.86
2018年9月期	78,034	33,536	28.9	1,215.95

(参考) 自己資本 2019年9月期第1四半期 22,005百万円 2018年9月期 22,582百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期		5.00		22.50	27.50
2019年9月期					
2019年9月期(予想)		5.00		27.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年9月期の連結業績予想(2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	74,400	6.5	4,630	7.1	4,170	2.7	2,000	34.4	107.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年9月期1Q	18,923,569 株	2018年9月期	18,923,569 株
期末自己株式数	2019年9月期1Q	351,528 株	2018年9月期	351,521 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年9月期1Q	18,572,041 株	2018年9月期1Q	18,711,194 株

(注) 期末自己株式数には、株式給付信託(J-ESOP)が保有する当社株式(2019年9月期1Q172,000株、2018年9月期172,000株)が含まれております。また、株式給付信託(J-ESOP)が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(2019年9月期1Q172,000株、2018年9月期1Q176,333株)。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnet及び当社ウェブサイトで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
3. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

[当連結会計年度の概況]

当社グループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する独自の事業モデルであるPVC (Pharmaceutical Value Creator) を展開しております。CRO (医薬品開発支援) 事業、CDMO (医薬品製剤開発・製造支援) 事業、CSO (医薬品営業支援) 事業、ヘルスケア事業において、製薬企業の開発、製造、営業・マーケティングのバリューチェーンを広範に支援しております。また、IPM (Innovative Pharma Model) 事業では、当社グループが保有する製造販売業等の許認可 (知的財産) とバリューチェーンを組み合わせた新たなビジネスソリューションを製薬企業等に提供しております。

医薬品業界においては、“患者により適した医療”の提供に向けて、革新的医薬品の創出が期待される一方で、保険医療財政への影響から、費用対効果評価や保険外併用療養活用の検討など薬価制度の見直しが進んでおり、医薬品産業は技術力や生産性の向上を通じて国際競争力のある産業構造へ転換することが求められています。第四次産業革命と称される人工知能 (AI) やIoTなどの新たなテクノロジーが社会全体に大きな変革をもたらし、ヘルスケア分野においても医療のあり方や健康に対する個人の価値観が変化する中で、産官学民が連携して少子高齢化社会に対するイノベーションに取り組んでいます。

当社グループは、この急速に変化する外部環境に迅速かつ柔軟に対応し、持続的な成長を実現するための取組み「Project Phoenix」を推進しております。2018年4月から開始した「Project Phoenix 3.0」では、製薬企業を全面的に支援する独自の事業モデルPVCの展開をヘルスケア分野に拡大し、新たなビジネスの創出に取り組んでおります。また、当連結会計年度を初年度とした新たな中期計画 (FY2019-2021) をスタートさせ、中長期的な企業価値向上の実現に向けて、PVCモデルの加速、グローバル化の促進、ヘルスケアビジネスの創出を重点課題に掲げ、グループ一丸となって諸施策を推進しております。

[売上高及び営業利益]

当第1四半期連結累計期間においては、グローバル市場での競争力を高めるため、米国における認知度向上と需要創出に努めるとともに、産官学民連携によるコンソーシアムを立ち上げ、地域医療ネットワークの構築支援を開始するなど、中期計画の重要課題に取り組んでおります。当第1四半期連結累計期間の売上高は、主にCRO事業が伸長したことにより17,399百万円 (前年同期比4.6%増) となりました。営業利益につきましては、CDMO事業の減益等により965百万円 (前年同期比4.8%減) となりましたが、概ね計画通り進捗しております。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

<CRO事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	9,012	9,674	662 (+7.3)
営業利益又は営業損失 (△)	1,812	2,121	309 (+17.0)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品開発支援に係る業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、海外企業の日本市場参入や異業種のヘルスケア市場参入支援、バイオ医薬品や再生医療等製品など高度化する開発ニーズへの対応を促進するとともに、アジアにおける拠点拡大に取り組んでおります。

臨床業務においては、堅調な引合いに応じた人材の確保に努めるとともに、製造販売後調査 (PMS) や臨床研究支援業務における医療データベース活用を進めております。

非臨床業務においては、国内及び米国ラボの連携を強化し、核酸医薬や再生医療など先端領域の創薬支援に積極的に取り組んでおります。2018年10月にはイオンチャンネル関連ビジネスのグローバル大手の日本法人ソフィオンバイオサイエンス株式会社と業務提携し、安全性薬理評価サービスの拡充を図っております。

売上高及び営業利益につきましては、新規受注及び既存案件が堅調に進捗したこと等により前年同期を上回りました。

<CDMO事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	3,586	3,384	△202 (△5.6)
営業利益又は営業損失 (△)	△184	△377	△193 (-)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品製剤開発・製造支援に係る業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、製剤化検討から治験薬製造、商用生産まで、グローバルに展開する医薬品製造のプラットフォームとして、技術力の更なる向上とローコスト生産体制の進展、戦略的な設備投資を通じた競争力強化を図っております。足利工場に新設した高薬理活性剤対応の注射剤棟では、治験薬の生産を開始しており、治験薬及び商用生産案件の獲得に向けて営業活動を強化しております。2018年12月には、主力剤形である固形剤の生産対応強化を図るため、アステラス製薬株式会社の生産子会社であるアステラス ファーマ テック株式会社の西根工場の譲受けに関し、株式譲渡契約書を締結いたしました。

売上高につきましては、国内工場において納期の変更が生じたこと等により、前年同期を下回りました。足利工場新注射剤棟の商用生産開始に向けた費用の発生及び減価償却費の増加等により営業損失を計上しました。

<CSO事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	1,675	1,782	107 (+6.4)
営業利益又は営業損失 (△)	56	△44	△100 (-)

当事業においては、主に製薬企業の営業・マーケティング支援に係る業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、シミック・アッシュフィールド株式会社において、MR (医薬情報担当者) 派遣業務や関連する新たなサービスに加え、メディカルアフェアーズ関連業務の営業活動を強化し、複数のコミュニケーションチャンネルと多様なサービスを組み合わせた総合的なソリューションの提供を進めております。

売上高につきましては、既存案件が堅調に進捗したこと等により前年同期を上回りました。MR派遣業務において、大型案件を含め需要が大幅に増加しており、新規受託案件に要する人材採用等の先行的な費用が発生したことにより営業損失を計上しました。

<ヘルスケア事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	1,739	1,699	△39 (△2.3)
営業利益又は営業損失 (△)	149	106	△42 (△28.6)

当事業においては、SMO (治験施設支援機関) 業務、ヘルスケア情報サービスなど、主に医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進のための支援業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、SMO業務におけるがん領域の対応強化及び更なる品質向上、新サービスの拡充を進めております。また、ヘルスケア情報サービスとして、ポータルサイト等を活用した治験情報等の提供や、セルフチェックサービスの展開に向けた準備を進めるなど患者向けサービスの強化に取り組んでおります。

売上高及び営業利益につきましては、SMO業務における受託試験の中止や一時的な中断等により前年同期を下回りました。

<IPM事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	746	954	208 (+27.9)
営業利益又は営業損失 (△)	△65	△12	52 (-)

当事業は、当社グループが保有する製造販売業等の許認可（知的財産）とバリューチェーンを組み合わせた新たなビジネスソリューションを製薬企業等へ提供する事業であり、主にオーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）や診断薬等の開発及び販売に係る業務を行っております。

オーファンドラッグ等事業においては、株式会社オーファンパシフィックが、自社開発品を含むオーファンドラッグ等を販売しております。また、IPMプラットフォーム提供を通じた海外製薬企業の日本市場進出支援や、製薬企業のビジネスモデル変化に応じた戦略オプションの提供等によるIPM事業の基盤強化に取り組んでおります。

診断薬事業においては、当社グループが腎疾患の診断を目的として開発した腎疾患バイオマーカー（L-FABP）の販路拡大及びプロモーションの強化に努めております。

売上高につきましては、オーファンドラッグ等の販売増加により前年同期を上回りました。黒字化に向けて、新しいビジネスソリューション提供による事業規模拡大に引き続き取り組んでおります。

[経常利益]

当第1四半期連結累計期間の経常利益は861百万円（前年同期比16.8%減）となりました。

なお、営業外収益として32百万円、営業外費用として支払利息、為替差損及び持分法による投資損失等135百万円を計上しております。

[親会社株主に帰属する四半期純利益]

当第1四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は536百万円（前年同期比1.4%減）となりました。

なお、特別利益として固定資産売却益6百万円、特別損失として固定資産除却損47百万円、法人税等合計として551百万円及び非支配株主に帰属する四半期純損失として267百万円を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末比で80百万円減少し、77,954百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加に対し、受取手形及び売掛金、投資有価証券の減少等によるものであります。

なお、有形固定資産については、CDMO事業（足利工場）の新注射剤棟の稼動に伴い建設仮勘定（有形固定資産その他）を機械装置及び運搬具に振替計上しております。

負債合計は、前連結会計年度末比で782百万円増加し、45,280百万円となりました。これは主に、短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの増加に対し、賞与引当金及び未払法人税等の減少等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末比で862百万円減少し、32,673百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年11月7日に公表いたしました「2018年9月期決算短信」における連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,009	15,441
受取手形及び売掛金	13,655	13,032
商品及び製品	514	613
仕掛品	3,419	3,608
原材料及び貯蔵品	1,878	1,948
その他	2,773	3,068
貸倒引当金	△18	△18
流動資産合計	36,233	37,695
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,533	12,417
機械装置及び運搬具(純額)	5,522	9,482
土地	6,167	6,160
その他(純額)	6,284	2,461
有形固定資産合計	30,508	30,521
無形固定資産		
のれん	419	349
その他	985	921
無形固定資産合計	1,405	1,270
投資その他の資産		
投資有価証券	3,809	2,876
敷金及び保証金	1,655	1,673
その他	5,032	4,515
貸倒引当金	△611	△598
投資その他の資産合計	9,887	8,466
固定資産合計	41,801	40,258
資産合計	78,034	77,954

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	726	781
短期借入金	1,450	2,084
1年内返済予定の長期借入金	3,648	2,274
コマーシャル・ペーパー	2,000	5,000
未払法人税等	1,076	51
賞与引当金	2,655	568
役員賞与引当金	63	-
受注損失引当金	683	585
その他	10,438	11,145
流動負債合計	22,741	22,489
固定負債		
長期借入金	12,178	13,473
退職給付に係る負債	7,544	7,675
その他	2,033	1,641
固定負債合計	21,756	22,790
負債合計	44,498	45,280
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,087	3,087
資本剰余金	6,102	6,102
利益剰余金	12,814	12,928
自己株式	△579	△579
株主資本合計	21,425	21,540
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,217	521
為替換算調整勘定	23	13
退職給付に係る調整累計額	△83	△70
その他の包括利益累計額合計	1,157	465
非支配株主持分	10,953	10,668
純資産合計	33,536	32,673
負債純資産合計	78,034	77,954

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)
売上高	16,637	17,399
売上原価	13,065	13,677
売上総利益	3,572	3,721
販売費及び一般管理費	2,558	2,756
営業利益	1,013	965
営業外収益		
受取利息	1	1
持分法による投資利益	16	-
為替差益	26	-
受取賃貸料	2	5
還付消費税等	3	4
受取保険金	-	14
その他	8	6
営業外収益合計	59	32
営業外費用		
支払利息	28	32
持分法による投資損失	-	35
為替差損	-	56
その他	9	11
営業外費用合計	37	135
経常利益	1,035	861
特別利益		
固定資産売却益	-	6
特別利益合計	-	6
特別損失		
固定資産除却損	13	47
投資有価証券評価損	4	-
特別損失合計	18	47
税金等調整前四半期純利益	1,016	820
法人税、住民税及び事業税	77	36
法人税等調整額	398	514
法人税等合計	475	551
四半期純利益	540	269
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3	△267
親会社株主に帰属する四半期純利益	544	536

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	540	269
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	70	△696
為替換算調整勘定	22	△27
退職給付に係る調整額	26	19
その他の包括利益合計	119	△703
四半期包括利益	660	△434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	665	△155
非支配株主に係る四半期包括利益	△5	△279

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	CDMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPM事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	8,974	3,559	1,675	1,681	746	16,637	-	16,637
セグメント間の内部 売上高又は振替高	37	27	-	57	-	122	△122	-
計	9,012	3,586	1,675	1,739	746	16,759	△122	16,637
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,812	△184	56	149	△65	1,769	△755	1,013

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△755百万円には、セグメント間取引消去等△4百万円、各報告セグメントへ配分していない全社費用△750百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	CDMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPM事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	9,605	3,366	1,781	1,690	954	17,399	-	17,399
セグメント間の内部 売上高又は振替高	68	18	0	8	-	96	△96	-
計	9,674	3,384	1,782	1,699	954	17,495	△96	17,399
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,121	△377	△44	106	△12	1,793	△828	965

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△828百万円には、セグメント間取引消去等△0百万円、各報告セグメントへ配分していない全社費用△827百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 補足情報

受注の状況

受注実績

(単位：百万円)

報告セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)		前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
CRO事業	10,479	56,440	8,320	54,520	37,873	55,805
CDMO事業	3,523	3,582	4,195	4,657	15,463	3,827
CSO事業	1,663	3,084	2,595	4,075	7,482	3,261
ヘルスケア事業	1,606	9,054	2,300	10,248	7,654	9,639
合計	17,272	72,161	17,411	73,501	68,474	72,534

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。
 3. CDMO事業の受注残高は確定注文を受けているもののみを計上しております。顧客から提示を受けている年間ベースでの発注計画等は、確定注文とは異なりますので受注残高には含めておりません。
 4. IPM事業は受託事業と業態が異なるため、受注実績から除外しております。